

家計を例にBS,PLを作ってみよう

1. 年の初めにあなたはお金を1,000万円持っていました。
2. 銀行から2,000万円を借りて、2,500万円の家を買いました。
3. 1年間の手取りの収入が500万円、生活費が300万円でした。
4. 年末に住宅借入金の利息50万円を支払いました。

では年末時点の貸借対照表 (B/S) ・ 損益計算書 (P/L) は？

年始の貸借対照表 (B/S)

資産	純資産
お金 1,000万円	1,000万円

年末時点の貸借対照表 (B/S) ・ 損益計算書 (P/L)

資産	負債
	純資産

費用	収入
利益	

企業に置き換えてROEを求める

資産	負債
現預金 650万円	借入 2,000万円
機械 2,500万円	
	純資産
	1,150万円

費用 350万円	売上 500万円
利益 150万円	

$$ROE = \frac{\text{利益}}{\text{純資産}} = \frac{150}{1,150} = 13\%$$

ROEは分解しなければ意味がない

$$ROE = \frac{\text{利益}}{\text{売上}} \times \frac{\text{売上}}{\text{資産}} \times \frac{\text{資産}}{\text{純資産}}$$

収益力 資産効率 安全性

- ROEは経営全体を読み解くための会計指標
- ROEのみを経営目標に掲げる企業は会計操作に走る可能性も

ROEのつじつま合わせの具体例

伊藤レポート後にはやった方法

資産 50億円	負債 20億円
	純資産 30億円

純利益 2億円
ROE 6.7%



社債10億円を発行or銀行から10億円借入

資産 60 (現金 + 10)	負債 30 (社債 + 10)
	純資産 30



市場から自社の株式10億円を購入

資産 50 (現金△10)	負債 30
	純資産 20 (自己株△10)

純利益 2億円
ROE 10%

資金調達がまったく本業に使われていない！

ROEを比べるだけでは分からない

ソフトバンク

	2014年3月	2015年3月	2016年3月	2017年3月	2018年3月
ROE	26.9%	23.5%	18.1%	39.8%	20.0%
売上高当期純利益率	7.8%	7.9%	5.3%	16.0%	11.3%
総資産回転率	39.9%	40.4%	42.9%	36.1%	29.4%
財務レバレッジ	864.6%	739.0%	792.3%	686.9%	601.5%
					(億円)
売上高	66,666	85,041	88,817	89,010	91,587
当期純利益	5,202	6,683	4,741	14,263	10,389
総資産	166,901	210,341	207,071	246,342	311,804
純資産（自己資本）	19,304	28,463	26,136	35,863	51,841

NTTドコモ

	2014年3月	2015年3月	2016年3月	2017年3月	2018年3月
ROE	8.2%	7.6%	10.3%	11.8%	13.1%
売上高当期純利益率	10.4%	9.4%	12.1%	14.2%	15.6%
総資産回転率	59.4%	61.3%	62.8%	61.5%	61.6%
財務レバレッジ	133.0%	132.8%	136.1%	134.8%	136.4%
					(億円)
売上高	44,612	43,834	45,271	45,846	47,694
当期純利益	4,647	4,101	5,484	6,525	7,445
総資産	75,080	71,463	72,141	74,531	77,483
純資産（自己資本）	56,434	53,801	53,022	55,306	56,804

オマケ：質問があった会計指標について

ROIC（投下資本利益率）について

$$ROIC = \frac{\text{投下資本から得られる営業利益}}{\text{特定事業への投下資本}}$$



特定の事業に焦点をあてた指標のため「特定」の選別が恣意的に行われる可能性もある。社内の事業管理のための会計指標と言えるのでは？

EBITDAについて

そもそも何が正しい求め方なのか分からない。

- 営業利益 + 減価償却費
- 税引前利益 + 支払利息 + 固定資産償却費

ゆえに恣意的な計算がしやすく、インターネット・バブルの頃にワールド・コムが粉飾に利用した指標として著名なため、なんとなく印象が悪い。

さらに企業の存続に不可欠な設備投資（償却費）をなかったものとする指標のため、長期投資のために参考になるのか疑問。